

自閉症児における歩行者用信号に対応した 横断歩道の横断の指導

Teaching street crossing skills based on traffic lights to a child with autism.

河崎 慈朗

KAWASAKI Jiro

立命館大学大学院

(Ritsumeikan Graduate school)

Keywords: 信号横断スキル, 室内シミュレーショントレーニング, 刺激性制御

目的

本研究では、「あか とまれ」「あお すすめ」の言語レパトリーを持っていない自閉症児を対象に、室内シミュレーション場面で歩行者用信号に対応した信号横断スキルを指導した。その際、お遣い場面を設定し、指導を行った。さらに、パソコン上での見本あわせトレーニングも行い、室内シミュレーショントレーニングの指導方法について検討した。

方法

対象者 総合支援学校に通う中学 3 年生の自閉症の男児。期間 200X 年 7 月～200X+1 年 11 月まで実施した(中断あり)。**場面** プレ・ポストテストは現実の横断歩道,その他は支援学校内の教室で実施した。**標的行動** 課題分析を行った信号横断行動の各構成要素。

手続き 以下の流れで指導を行った。1) **現実場面でのプレテスト**: 校外学習時の経路で行った。横断歩道の手前まで来ると、研究者が「前の信号をよく見て渡ってね。」といい、試行を開始した。正反応に対するフィードバックは出さず、危険な行動をした場合のみ制止した。

2) **室内アセスメント**: 宮崎・井上(2007)を参考に、室内でパソコンとプロジェクタを用い、歩行者用信号のある横断歩道のシミュレーション場面を作った。実際に横断させ、プロンプトつきで横断行動の一連のアセスメントを行った。ここでは、メイントレーナー(以下、MT)が横断歩道の手前で対象児にお遣いを頼み、横断歩道を渡って商品を取ってくるよう場面を設定した。

3) **ベースライン期**: 横断歩道の後方にスタートラインを設置し、ベースラインを行った。正反応に対するフィードバックは出さず、プロンプトも一切出さなかった。なお、B.L.以降では赤信号、青信号、点滅信号の3種類の刺激を使用した。

4) **正誤のモデリング期**: MTが対象児に同行して、信号横断に関する正誤のモデリングを行い、その後対象児のみでトレーニング試行に従事させた。トレーニング試行では、対象児が課題に従事していないと判断した場合に、MTが「一人で行ってきて。」という言語プロンプトを出した。誤反応や青になって5秒以上経っても無反応の場合は試行を中断した。なお、2試行目以降では停止ライン上に足型を設置した。

5) **トークン(同行なし)期**: 横断歩道を渡りきり、お遣いの商品を持って戻ってくるとトークンを1つ与え、3つ揃えば絵本を読めるようにした。横断に関しては一人でやらせた。無反応や誤反応の際すぐに止め、プロンプト付きの修正試行を行った。この際も信号を渡りきればトークンを1つ与えた。

6) **トークン(同行あり)期**: 同行なし期では、スタートしてもMTの元まで戻ってくることがあったため、MTが停止ラインまで同行し試行を行った。これ以外は同行無し期と同じ手続きで行った。

7) **現実場面でのポストテスト()**: プ

レテストと同様の手続きで行った。8) **見本あわせトレーニング**: パソコン上で、見本あわせトレーニングを行った。見本刺激は信号が写った交差点の画像とし、比較刺激は赤・青の信号の画像を使用した。

9) **トークン(同行なし)期**: 再度5と同じトレーニングを行った。

10) **トークン(MTの位置変更)期**: MTが信号の向こうに立ち、試行を行った。それ以外は5と同じだった。11) **ポストテスト()**: プレテストと同様な手続きで行った。

結果・考察

室内シミュレーショントレーニングの結果を図1に表した。結果より、6までの室内シミュレーショントレーニングでは歩行者用信号に対応した横断スキルを獲得することはできなかった。また、ポストテスト()でも有意な変化は無かった。見本あわせトレーニングは、試行を重ねるごとに正反応率が上昇し、パソコン上では弁別が可能になった。しかし、その後の同行なし期では、MTに反応を依存する行動が見られた。そこで、MTが信号の向こうに立って試行を行ったところ、自発的に信号に基づいて横断することが出来た。また、ポストテスト()でも、自発的に横断し始めることが出来た。

本研究の6までの手続きでは、信号の色よりもMTの出す音声・動作刺激による刺激性制御が強まる結果となった。その要因としては、主にフィードバックやプロンプトの出し方であったと考えられる。

最終的に横断スキルを身につけることが出来た要因は、見本あわせトレーニングの効果が環境設定の影響かは判断できない。しかし本研究の結果は、信号横断トレーニングは、シェイピングの観点から行う重要性と、トレーニングのみを行うのではなく、環境設定の操作も考慮する必要があることが示唆された。

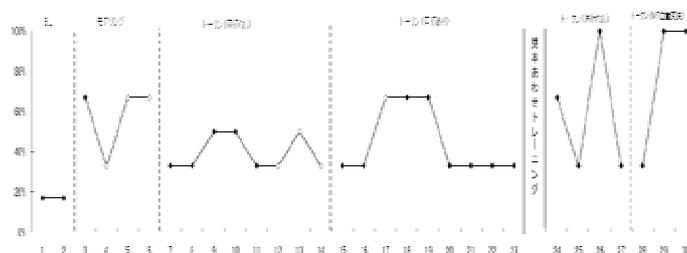


図1 室内シミュレーショントレーニング(BL以降)での赤信号試行の正反応率。縦軸は正反応率、横軸は試行数
なお、白抜きの は観察従事に関するプロンプトを出した試行

文献

宮崎光明・井上雅彦(2007). 自閉症児における歩行者用信号機のある横断歩道の横断指導
パソコンとプロジェクタを使ったシミュレーションによる短期集中訓練 日本行動
分析学会第25回年次大会発表論文集, 85.